「約束のものを得る為の忍耐」ヘブル１０：３２－３６　　１８・１１・４

Ⅰ　先行する恵み

私達が始めに苦しみを受けるのではなく、主ご自身が、まず私達を愛して、先に私たちの救いの為に不当な苦しみを受けて下さった。

「善を行って苦しみを受け、それを耐え忍ぶなら、それは神の御前に喜ばれることです。
このためにこそ、あなたがたは召されました（神に呼ばれ、救われました）。
キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残された」
（Ⅰペテロ２：２０－２１）

Ⅱ　試練があっても忍耐し、神の約束された祝福を手に入れる。：３２－３６

１.「あなたがたは、光に照らされた（主に救われた）後で苦難との厳しい戦いに耐えた、初めの日々を思い起こしなさい」：３２。

初めの頃の、命を懸けてまず愛して下さった主への愛、犠牲を犠牲とも思わない愛、すべてをささげて愛された主のためにささげるのは当然という愛を、忘れずに思い起こす。

信仰は時間と共に自動的に成長するものではない。たるんでしまった現状を反省し、初めの愛を思い起こすべき時がある。

①苦難に会いながら激しい戦いに耐えたヘブル人達。神の恵みと愛の故に。

②「嘲られ、苦しい目にあわされ、見せ物にされたこともあれば、このような目にあった人たちの同志となったこともあります」：３３。

この手紙を受け取ったヘブル人のクリスチャンが実際に経験した迫害と愛。
主を信じる故に、世から迫害を受ける（ヨハネ１５：１８－２０）。
それさえ、愛してくださる主の為の苦しみなので光栄に思う。
このような主を信じる故の苦しみによってこそ、私達の信仰は磨かれ、本物になって行く。

③また、そのような目に会った人々の仲間、同志になった者もいる。

かつて、１９４０年頃、第二次世界大戦の時、日本でも真実なクリスチャンが、天皇制（天皇は神）とキリスト教（キリストは神）がぶつかるという事で、投獄された時、あるクリスチャン達は、その人々の同志にならず、見捨てた。自分の身を守るため。

私達も、自分の事として、祈り備えておきたい。最後まで、主を愛し、人々を愛せるように。主は勇気と支えを下さる！

周りの人々に人気のある時の人々、教会の仲間になるのは簡単である。しかし、もっと本物の信仰による愛は、周りの人々が白い目で見、敵対している人々や教会を見捨てず、神の前の正義の為に、同志となり、進んで行く。そのような時こそ、信仰、愛が本物かどうかが分かる。神からの忍耐を祈り求めたい。今、世界の迫害の中にある人々の為に祈ろう！

④「あなたがたは、牢につながれている人々と苦しみをともにし、また、自分たちにはもっとすぐれた、いつまでも残る財産があることを知っていたので、自分の財産が奪われても、それを喜んで受け入れました」：３４。

主の為に牢につながれている人々と苦しみを共にする愛。主から愛を受け、迫害されている人々を愛する。
牢に入れられた者を、主にある友人達が見舞ってくれなかったら餓死していた事だろう。
私達にも、そのような事が起こる時、他の人を主に仕えるように見舞えますように！（マタイ２５：３６）。
彼らは、迫害により、財産も奪われた。しかし、彼らは、信仰の目をもっていた。いつまでも残る真の財産＝天国、永遠の命、罪の赦し、神の報い、神の祝福を知っていた。
この世の財産は、いつまでも残る物ではない。いつかは消え、なくなり、他人のものになる。私達は、死

ぬ時、すべての持ち物を手放さなければならない。
しかし、神の救いは永遠。３４節の最後には、財産が奪われても、それを「喜んで受け入れました」とある。ここに素晴らしさがある。
ただ歯をくいしばって、いやいやながら耐え忍ぶのではない。これは、人間の力では出来ない。神の救いの恵みの力、御聖霊の力である（使徒５：４１、１６：２５）。
最近の私達の信仰生活、奉仕、ささげ物は、ただの義務感、いやいやながらだっただろうか？
それとも、主の救いの喜び、感謝から生まれているものか？
主よ、心から愛されたあなたの為に心からの感謝と喜びと愛をもって奉仕やささげものをする者として下さい。

２．「ですから、あなたがたの確信を投げ捨ててはいけません。その確信には大きな報いがあります」：３５。
ここのヘブル人達も長い苦しみによって、主への信仰、確信を投げ捨てる誘惑と戦いに会っていた。特に仲間の一人二人が主から離れて行く時、残る人々も動揺する。
悪魔は、弱っている私達に、こうささやく。
「主に従っていても、何の得もしないよ。かえって世の人から、そしられるだけじゃないか。みじめではないか。世の生活が、もっと得だし、楽しいよ」と。
しかし、それは、全くの嘘である。
一時的な快楽を与える罪、悪、不正は、その後、何倍もの辛い思い、刈り取り、家庭の破たん、仕事の破たん、心と身体への害、現在と死後に、その罪の刈り取りが、ちゃんと待っている。
神は、すべてを見ておられ、神の時に正しくさばかれる。報いも裁きも。
悪魔が、みじめだと言う信仰生活は、決してみじめではない。
素晴らしいイエス様なしの自分のみじめな生活を忘れないようにしよう。主は、みじめな人生ではなく、真の愛と赦しと恵みと平安と力と命と真に必要なものを与え続けて下さっている。一つ一つを数えて感謝したい！そして、天でも、神の大きな報いが与えられる。
神は、私達の愛の奉仕、１０分の１の奉げ物、礼拝献金、感謝の奉げ物、すべてを知っておられる。神は地上でも報い、さばきを与え、天でも報い、完全なさばきを与えられる。
※政治家、役人、会社、大学、病院等の不正発覚も神のわざ。

３．「あなたがたが神のみこころを行って、約束のものを手に入れるために必要なのは、忍耐です」：３６。
神は、確かに約束のものを与えられる。それまで「忍耐」が必要である。
忍耐の原語の動詞形の意味：忍耐する、後に残る、逃げ出さずに留まる、持ちこたえる、耐える、耐え忍ぶ、待つ、待望する。
忍耐は、つらい状況から逃げずに、支えて下さる主にとどまる。
諦めず、人生を投げ出さず、主に頼り、主の時を待ち、主を信頼し続ける。
私達の生まれつきの性質は、忍耐や待つ事は好きではない。すぐに与えられる事、すぐに答えられる事、すぐに苦しみがなくなる事を求めやすい。
しかし、すべての事に、私達の思いをはるかに越えた主の方法と主の時がある。
忍耐とは、何もしないで待つ事ではなく、神への信頼、確信を堅く保ち、今すべき事に専念し、神のみこころを行う事。
「神のみこころ（私達の救いの成就）を行う為に」クリスマスに来られた主が、十字架の苦難を通って私達の救いを完成されたのだから、この主のしもべである私達も、安易な道だけを選ぼうとせず、主の足跡に従って行きたい。
主は、私達が、つらい中にある時も、いつも私達と共におられ、私達を心から愛して、私達を支えて下さる！
主を心の目で見続けよう！